備考 2）点検及び評価に係る学識経験者の意見について

福山市教育委員会が実施した「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について，教育に関し学識経験を有する者から，次のとおり意見を聴取した。

【学識経験者】

名　前	役職等
伊澤　幸洋	福山市立大学副学長
永久　洋子	社会教育委員
藤井　裕久	福山市ＰＴＡ連合会会長

（五十音順）

【意見の要旨】

（点検及び評価全般に係る意見）

◇　コロナ禍で制約条件が多い状況にあってそれぞれの活動が精力的に展開されたことが理解できた。

◇　コロナ禍で目標が達成できない項目については，別の目標を立ててそちらを中心に評価をするか，解釈としてより具体的に二次目標を達成できるように調整されるとよかったと思う。

◇　コロナ禍２年目ではあったが影響は大きかったと思う。学校教育，社会教育ともに様々な制限があった。子どもたち（未成年者）への検討・対策は早急に進めてもらいたい。子どもたちにとっての３年間は大きい。

◇　基本施策の評価は，「一部達成５，未達成１」であり，困難な状況であった。「おおむね達成１（教育環境の整備），達成 1（文化財の調査と資料収集）」と成果が認められる項目もあった。

（就学前教育に係る主な意見）

◇　小学校との接続を見通した教育課程の編成こそが最も重視される事項であるので，有効性と実効性のある教育課程の編成に本格的に着手する必要があると考える。交流会や行事については，必要性を判断して縮小することもあってよいのではないか。イベントは教育効果との関連で判断し，携わる教職員の労務負担も考慮する中で縮小し，通常の教育・保育内容を着実に充実させていくべきと考える。

（学校教育に係る主な意見）

◇　「学力」をどう捉えるのか，「全国学力・学習状況調査」の指標でよいのかどうかを考えてみる必要があるのではないか。国の指標を客観的評価として採用するにしても，未達成だった今回，公立校の児童・生徒の「学力」に関する現状をどう把握しているのか，適宜他の指標も取り入れながら分析・解釈しておくと，現状を踏まえた対策がとれると思われる。

◇　全国学力・学習状況調査や体力・運動能力調査が，県平均を上回るという目標値に達し

ていない。対話や体験を通して主体的な学びを進めることは意義があり大切なことである。しかし，基礎学力，理解力が身に付いていなければ，将来にわたって学び続ける意欲につながらないと思う。

◇　補助員の配置が一部増員されている。また教員の仕事への意義，やりがいの状況が少しずつ改善されていると感じる。全国的には教員不足の状況があると報道されているが，県，市での取組を願う。過重な負担が教員のやりがいや意欲の減退につながらないようにしてほしい。

（生涯学習・社会教育に係る主な意見）

◇　図書館運営について，電子図書貸出サービスの導入や，郷土資料等のデジタル化など，今だからこそ取り組める活動にも注力していることが理解できた。子どもが進んで図書館を利用したくなるような取組を引き続きお願いしたい。

◇　公民館が５カ月間閉館となり，市民大学等も同様であった。一部オンラインでＩＣＴ機器を活用していたが，対応しきれていない所も多く，結局「休み」となったことのストレスは大きい。長引くコロナ禍のもとでは，全市的なつながりをもつ方法と，地域に根ざした小さなグループで学習を進める両面の方法を採るべきと思う。

（文化財に係る主な意見）

◇　文化財の調査研究が順調に進められ，指定・登録も目標値を上回る達成であったことは評価できる。文化財の活用に関して，出前講座の資料や講演内容のビデオ保存などもあるとよいと思う。

◇　福山城築城４００年の取組は，福山市民に歴史伝統文化に対する関心や誇りを取り戻させたと思う。この機運を生かし，高齢者のみならず，中，若年層に広げるために，新しく修理整備された福山城（博物館），吉備津神社，沼名前神社等，何度も公開し，例えば学校単位などで見学・活用し，継続的な取組を進めてほしい。